

4章 関連施設

4-1. 介護老人保健施設 老健くろさわ	90
4-2. 介護付有料老人ホーム カーサ・デ・ヴェルデ黒沢	92
4-3. 高崎東部福祉総合相談センター	94
4-4. 社会福祉法人ペレンナトリリアム 特別養護老人ホーム シェステやまの花	97
4-5. 社会福祉法人マグノリア2000 特別養護老人ホーム シェステさとの花	98
4-6. 株式会社ブラビック	100



介護老人保健施設老健くろさわ



介護付有料老人ホームカーサ・デ・ヴェルデ黒沢



高崎東部福祉総合相談センター



特別養護老人ホームシェステやまの花



特別養護老人ホームシェステさとの花



株式会社ブラビック

4-1. 介護老人保健施設 老健くろさわ

◆ 概要

組織構成と各部門の役割

老健くろさわは、入所支援を中心に、通所・訪問支援まで包括的なサービスを提供しています。黒沢病院および黒沢病院附属ヘルスパーククリニックと連携することで、急変時の迅速な医療対応や日々の健康管理を円滑に実施できている点が大きな強みです。2025年度は、106名の職員が以下の体制でサービス提供をおこないました。



田口 正毅

老健くろさわ・
老健くろさわユニット
さくら施設長
高崎東部福祉総合
相談センター長

● 入所（ユニット型／従来型）

入所者の多様な生活ニーズに応じ、個別ケアを重視したユニット型と、集団生活を支援する従来型の2方式を併用しています。利用者の生活習慣や人間関係を尊重した支援体制を維持しつつ、介護DXを推進し、最新の見守り機器を活用した安心・安全な介護を提供しています。

● 通所リハビリテーション（デイケアくろさわ）

70分の短時間利用、半日利用、1日利用の3形態を用意し、生活機能の維持・回復に向けた支援を実施しています。医療的管理のもと、歩行訓練やマシントレーニングなど多様な運動プログラムを提供。最新機器の導入や手厚いリハビリマネジメントにより、大規模型施設でありながら質の高いサービスを実現しています。

● ショートステイ

在宅で介護をおこなうご家族を支えるための一時的滞在サービスを提供しています。緊急受け入れにも対応し、一部医療的支援も可能です。在宅生活と施設生活を組み合わせることで、利用者・ご家族の希望に沿った柔軟な支援をおこなっています。

● 訪問リハビリテーション

リハビリ専門職が利用者宅を訪問し、実生活の環境に即したリハビリ支援を実施しています。生活機能の回復と介護負担の軽減を両立し、住み慣れた自宅での生活継続を支えています。



◆ 2025年度実績

1. 事業実績の向上

- ・老健入所売上：前年対比102.7%で過去最高を更新
- ・老健入所稼働率：平均97.4%（前年対比102.3%）
- ・デイケア売上：前年対比112.1%で過去最高を更新
- ・デイケア利用者数：平均84.8人（前年対比111.1%）

2. ICT・設備投資の推進

- ・全館 Wi-Fi環境を整備
- ・見守りセンサー・見守りカメラ・インカムを導入し、業務効率化と安全性を強化

3. 人材育成・組織評価

- ・ぐんま介護・福祉人材育成認定事業者の認証を取得
- ・第32回群馬県老人保健施設大会において2演題が優秀演題賞を受賞
- ・美心会グループ学術大会において最多演題発表部署として表彰



4. 利用者サービスの充実

- ・デイケアくろさわにて 月1回のマジックショーを新規開催
- ・老健くろさわ10周年記念イベント を実施し、地域との交流を強化



◆ スタッフ構成 (2026年3月末時点)

職員総数：106名

- ・施設長、副施設長、副施設長代理
- ・理学療法士 10、作業療法士 3、言語聴覚士 1、歯科衛生士 1、管理栄養士 2、調理師 10、庶務 4
- ・入所部門：ケアワーカー 38、看護師 11、薬剤師 1、介護支援専門員 2、社会福祉士 3、事務 2
- ・通所部門：ケアワーカー 11、看護師 1、事務 1、運転手 2

◆ 学術活動

- ・満島麻衣子. 経口移行加算を活用し経口摂取再獲得に向けた取り組み ～多職種連携による摂食嚥下リハビリテーション～. 第32回群馬県介護老人保健施設大会, 安中文化センター, 2025.11.15
- ・関根望. 歩みを支える気づきと転倒予防対策 ～デイケアくろさわでの実践～. 第32回群馬県介護老人保健施設大会, 安中文化センター, 2025.11.15
- ・深津紀明. 非接触型睡眠モニタリングシステム眠りコネクトを活用した老健施設における睡眠マネジメントの実行可能性. 第10回美心会グループ学術大会, 黒沢病院, 2026.2.15
- ・柴田浩弥. 『その人らしさ』を引き出す関わりを目的とした個別ケアへの取り組みと主観的QOLへの影響. 第10回美心会グループ学術大会, 黒沢病院, 2026.2.15
- ・板垣拓也. 利用者増に向けた取り組みとその効果. 第10回美心会グループ学術大会, 黒沢病院, 2026.2.15
- ・森永祐介. 困難事例による在宅復帰支援の取り組み. 第10回美心会グループ学術大会, 黒沢病院, 2026.2.15
- ・満島麻衣子. 経口移行加算を活用し経口摂取再獲得に向けた取り組み ～多職種連携による摂食嚥下リハビリテーション～. 第10回美心会グループ学術大会, 黒沢病院, 2026.2.15
- ・飯塚智樹. 通所リハビリテーション利用者における栄養状態・口腔機能と身体機能の関連. 第10回美心会グループ学術大会, 黒沢病院, 2026.2.15
- ・猪熊祐貴. デイケアくろさわにおける利用者増加の要因分析とその考察. 第10回美心会グループ学術大会, 黒沢病院, 2026.2.15
- ・関根望. 歩みを支える気づきと転倒予防対策 ～デイケアくろさわでの実践～. 第10回美心会グループ学術大会, 黒沢病院, 2026.2.15
- ・金井秀樹. 老健くろさわにおける10年間の運営実績と役割変遷の検討. 第10回美心会グループ学術大会, 黒沢病院, 2026.2.15



4-2. 介護付有料老人ホーム カーサ・デ・ヴェルデ黒沢

上野 哲哉（施設長）

◆ 概要（2026年3月末時点）

開設 2018年9月2日

施設規模 100室（スタンダードルーム：90室、プレミアムルーム：2タイプ10室）

職員 看護師 9名（正職員 8名、パート 1名）、介護士 42名（正職員 30名、パート 12名、育児休暇 2名含）、リハ 3名、ケアマネ 3名（正職員 2名、パート 1名）、相談員 1名、管理栄養士 1名、事務職員 2名、CEO 1名

入居者 98名（男性21名、女性77名、平均年齢 90歳11か月）

介護度内訳：自立：17名、要支援1：3名、要支援2：7名、要介護1：19名

要介護2：22名、要介護3：3名、要介護4：14名、要介護5：13名

◆ 施設の特長

●医療法人が運営（安心な医療連携・看護師24時間常駐）

県内にも医療法人運営のホームはありますが、当ホームのように130床を有する急性期病院に隣接するホームは珍しく、外来診療や緊急対応の搬送、入退院支援を速やかにおこなえる点がご入居者・ご家族の安心・安全につながっています。また、介護付ホームの多くは夜間看護師を配置していない場合が多いですが、当ホームでは24時間常駐（夜勤体制）しています。

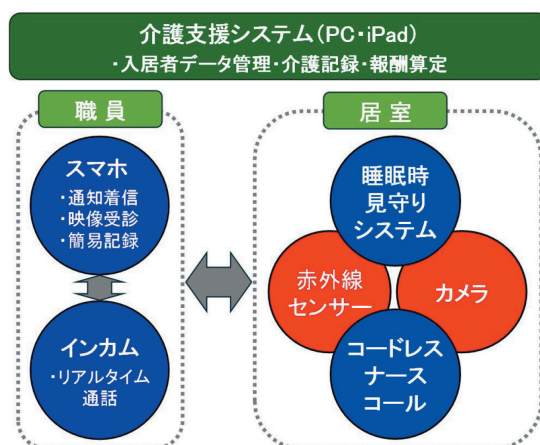
●受診時の負担が少ないホーム

ご入居者が黒沢病院附属ヘルスパーククリニック（以下HPC）を外来受診される際は、①送迎 ②必要な方には看護師が付き添う ③ほぼ待ち時間がない ④会計・処方せん待ちもない など、受診に関わる負担が軽減されます。特別な受診でなければ、ご家族の付添いは必要ありません（受診結果はご家族さまにご報告いたします）。口腔ケアにも積極的に取り組んでおり、HPC歯科にて入居時の歯科受診を始め、定期的に口腔ケアのための受診をおこなっています。



●DXで実現する入居者にも職員にも優しいホーム

当ホームではサービス向上と職員負担の軽減を両立するために介護におけるDXを積極的に推進しています。開設当初から内線電話にスマホを採用、それに連動する「介護支援システム」「睡眠見守りシステム」「赤外線センサー」「コードレスナースコール」を導入しました。これらに加えてWi-Fi経由の「インカム」と骨伝導イヤホンを導入することで、多職種間での連携がタイムリーにおこなえるようになっています。（右図：ICT機器の連携イメージ）



●リハビリテーションが充実

ご入居者の体力の維持向上を目的に、介護保険で定められた施設基準を上回る、理学療法士2名、作業療法士1名を配置しています。

2025年度も、ご入居者、ご家族から実施要望の多かった個別トレーニング（週2回実施）の対応枠を拡大しました。具体的には、2024年度では年間324件、月平均27件でしたが、2025年度は年間446件、月平均37件に増やし、延べ実施回数は年間2,638回、月平均220回を実現しました。また、当法人の誇るメディカルフィットネス ヴァレオプロの別館を併設しており、要支援1までのご入居者は転倒リスクをテストした上で、自由に施設を使うことができます。



●散策が楽しい緑の家

当ホームの名称Casa de Verdeはスペイン語で「緑に包まれた家」を意味しています。その名のとおり、四季を通じて花々が咲き誇る庭園と自然の恵みを体感できる菜園を有しており、緑豊かな心地よい空間が広がっています。散歩や畑仕事を通して、折々で自然に触れることができます。また、2025年度も、夏祭り、花火大会、クリスマス会など、様々なイベントをおこないました。



◆ 職員の育成・教育

こうした当ホームの数々の特長を維持発展させていくために、職員の育成・教育は欠かすことのできないものです。毎日の朝礼・夕礼で理念、行動指針、月間ホスピタリティ強化目標の唱和をおこなっています。また、キャリアパス委員会を中心に、毎月のe-ラーニングや資格取得の後押しをしています。美心会の健康経営の方針に基づき、職員全員が健康的にやりがいを持って働けるよう年2回の職員面談を実施し、普段から相談しやすい雰囲気作りに努めています。

職員が働きやすく、働きがいのある職場づくりを実現するために「チェック&アクション25」に取り組み、現状の自己点検、課題の明確化、具体的な改善を進めています。こういった取り組みに対し、（公財）介護労働安定センターから「奨励賞」を2025年1月にいただくとともに、群馬県から「ぐんま介護・福祉人材育成認証事業者」の認証を2025年2月に受けています。

2025年度の取り組みとして、全職員が「スマート介護士」の資格を取得しました。「スマート介護士」とは、介護ロボットやICTなどを現場で使いこなし、「介護の質」と「業務の生産性」の両方を向上させる専門職であることを証明する民間資格です。この資格取得を通じて、人手不足が深刻化する介護業界において最新技術を活用して業務の効率化に取り組む人材を育てるきっかけになればと考えています。



4-3. 高崎東部福祉総合相談センター

齋藤 太郎（介護局長）

◆ 概要

当部署は、在宅介護サービス部門を中心とした6事業所、計34名の職員で構成されています。

【居宅介護支援センターくろさわ】（1999年8月開設）

美心会の地域包括ケアシステムや高崎市内の社会資源を活用して、ご自宅で穏やかな毎日を送って頂けるよう支援しています。スタッフは、介護支援専門員6名（うち、主任介護支援専門員5名）です。皆さまのお役に立てるよう、研修やカンファレンスなどを通じて、日々成長できるよう取り組んでおります。

担当実績（2025年4月～2026年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	207	210	214	219	228	219	223	227	226	210	209	217
予防	89	92	100	107	107	109	107	104	104	94	94	88

【訪問看護ステーションくろさわ】（1997年3月開設）

ご利用者数は約150名で、重症者や自宅でのお看取りの方から生活習慣の改善に向けた方まで幅広く訪問しています。ご利用者、ご家族の方々が安心・安全に過ごせるように、スタッフ全員で様々な検討をおこない、ご利用者本位の温かい支援を大切にしています。訪問リハビリでは、ご利用者・ご家族も含めた在宅目標達成に向けて、経験豊富なスタッフがご利用者の状態に合わせたリハビリテーションを提供しています。また最新の医療機器を使用した機能回復にも取り組んでおり、ご自宅で安心・安全に暮らしていただけるように支援をしております。スタッフは、看護師4名、理学療法士2名、作業療法士1名です。

訪問実績（看護延べ件数）（2025年4月～2026年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	241	228	211	216	195	219	224	220	231	215	195	229
医療	91	102	91	69	58	67	57	74	88	97	75	86

訪問実績（リハビリ延べ件数）（2025年4月～2026年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	408	407	393	386	374	362	289	366	400	353	321	343
医療	29	40	38	37	27	22	25	37	39	38	33	36

【ヘルパーステーションくろさわ】（1999年11月開設）

ご利用者のご自宅を訪問し、住み慣れたご自宅で、安心・安全に生活が続けられるように、自立を助ける仕事をおこなっています。経験豊かなホームヘルパーによる心のこもった丁寧できめ細かいサービスがウリです。スタッフは、介護福祉士7名、ヘルパー2級（介護職員初任者研修修了者）4名です。

訪問実績（延べ件数）（2025年4月～2026年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	726	807	806	847	711	777	847	859	879	800	732	811
予防	153	161	142	174	163	165	164	147	152	149	139	148
自費	16	21	15	25	0	14	22	17	16	24	22	38

【サービス付き高齢者向け住宅ラ・ヴィオラ中居】（2010年4月開設）

ヘルパーステーションを併設したサービス付き高齢者向け住宅で、2022年4月には居室を12室から15室へ増築し、2025年には浴室を増やすため再増築しました。施設内には24時間スタッフを配備しており、黒沢病院、附属ヘルスパーククリニックをはじめとする関連医療機関や介護施設との連携により、緊急時にも適切な対応ができるよう万全の体制を整えています。また、ヘルパーステーションを併設している為、安心して生活を送ることができます。スタッフは、正職員2名、まかない4名、他に日直・宿直スタッフです。



左：ラ・ヴィオラ中居
右：秋のバス旅行
（ハッ場ダム）

【高齢者あんしんセンターくろさわ】（2017年4月開設）

【高齢者あんしんセンターくろさわ岩鼻】（2019年2月開設）

高齢者あんしんセンターは、高齢者の抱える心配ごとや悩みごと、介護保険に関する疑問などの総合相談窓口です。電話や来所による相談のほか、ご自宅への訪問相談もお受けしています。あんしんセンターくろさわは中居小学校区、あんしんセンターくろさわ岩鼻は岩鼻小学校区を担当しています。スタッフは、主任介護支援専門員1名、介護支援専門員1名、社会福祉士2名、保健師1名、看護師1名です。



地域活動との連携の様子

相談対応実績（2025年4月～2026年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
くろさわ	357	278	257	175	185	199	170	132	137	159	210	214
岩鼻	346	482	390	217	263	251	272	350	452	408	321	373

※電話・来所・訪問等相談対応を全て含む

◆ 2025年度の学術活動

- ・高橋みどり、高齢者虐待への対応と養護者支援について、ケアマネ勉強会「虐待について事例を通じ介護支援専門員としての関わり方を学習する」、2026.1.13
- ・吉本奏多、他、階段の壁を越えた2つの事例、第10回美心会グループ学術大会、2026.2.15

◆ 介護DXの推進

介護情報基盤構築などICT技術を活用した業務効率化の動きに対応して、2024年11月から介護DX会議を毎月開催しています。東部福祉各事業所と老健、デイケア、システム部の間で課題の共有や検討をおこない、ケアプランデータ連携システムの導入など、できることから取り組みを進めています。

◆ 教育・訓練

当部署では各々の力量向上のために「外部研修会参加」「事例発表」「資格取得」などを個人目標に定めています。学んだ内容は、レポート提出と伝達講習の実施によって水平展開し、職員全体のスキルアップを図っています。

地域包括ケアシステムにおける連携の重要性について

～高齢者あんしんセンターの視点から～

浅田 革（高齢者あんしんセンターくろさわ岩鼻・管理者）

高崎市のみならず、群馬県や日本全国においても急速な高齢化は大きな課題となっており、ひとつの転換点とされていた「2025年」も既に過去のものとなってしまいました。住み慣れた地域で自分らしい生活を継続できる仕組みとして「地域包括ケアシステム」がありますが、理想としてのシステム像から現実的に生活を支えるシステムの構築・運用が求められていると考えます。

地域における高齢者の「総合相談窓口」として、介護、医療、福祉、権利擁護など幅広い支援をおこなう「高齢者あんしんセンター（＝地域包括支援センター）」がありますが、美心会のグループ内では、「さとの花（乗附・鼻高小学校区）」「くろさわ（中居小学校区）」「くろさわ岩鼻（岩鼻小学校区）；写真」の3つのセンターが高崎市からの業務委託を受け、日々対応しております。

時には「地域包括ケアシステムの中核を担う」と表現されることもあります。高齢者あんしんセンターのみで全てを担う、または完結することは到底難しいことです。その中で重要となってくるのが「地域包括ケアシステム内の連携」です。

高齢者あんしんセンターの視点からみた「地域包括ケアシステム内の連携」には、①「美心会・地域包括ケアシステム内の連携」 ②「地域内の連携」 ③「センター間の連携」と複数の「連携」が考えられます。

①は、黒沢病院・黒沢病院附属ヘルスパーククリニック・高崎東部福祉総合相談センター内の各部署など、2019年に完成した法人内における地域包括ケアシステムの強みを存分に活かした連携です。

②について、高齢者あんしんセンターは上述のとおり、地域における高齢者の「総合相談窓口」として存在しています。時にはフォーマルなサービスのみでは解決・改善にはつながらず、地域住民の情報や関わりなどインフォーマルな力が大きな役割を果たすことがあり、地域内の連携は切っても切れない大切な関わりです。

③については、悩みや課題は十人十色であると同時に「地域性」も大きな要因となります。前記のとおり美心会グループ内には3つの高齢者あんしんセンターがあり、複数の地域やその特性を理解した存在として大きな強みとなっています。まず、くろさわ・くろさわ岩鼻両センターでの連携を開始、現在では更なる相乗効果を期待し、月1回おこなわれる「あんしんセンター合同会議」にさとの花のスタッフにも参加いただき、新たな刺激を受けながら連携を図っています。地域包括ケアシステムや地域への還元その他、業務効率化という観点でも連携は重要となっています。

おわりに、地域包括ケアシステムには「美心会内」だけでなく、「高崎市規模」「小学校区規模」など様々な形や規模、運用方法が存在します。いかなる場面においても、地域における第一線としての役割を十分認識し、行動するとともに、『困っている人がいれば「連携」を最大の武器として最善の支援を提供できる』ようにこれからも取り組んでまいります。



4-4. 社会福祉法人ペレンナトリリアム 特別養護老人ホーム シェステやまの花

今井 牧仁（施設長）

◆ 概要

やまの花は多野郡神流町の高台に位置し、開設から28年目を迎えました。介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいという地元の方々の願いを受け、黒澤理事長が開設した施設です。

日本で過疎化が進んでいる地域はどこにでもあります、その中でもこの地域では進行が特に顕著です。そのような地域に暮らす高齢者は、都会で暮らす方々に比べ先祖代々暮らしてきた家や地域への思いが人一倍強く、たとえ自宅でなくともやまの花で見慣れた景色に囲まれて暮らし続けることに大きな意義があり、地域の方々から大変喜ばれています。

施設建設の計画が始まってから約30年が経ちます。当時の計画に携わった関係者や開設当初の職員、施設ボランティア、運営に協力していただいた地域の方々が、近年では利用者としてやまの花で生活されるようになり、「やまの花が開設されて本当に良かった」と話してくださいます。

この地域は、人材確保が困難な状況にありますが、開設当初から勤務を継続している職員に加え、2020年からは若い外国人スタッフがこの地域で暮らしながら勤務しています。利用者にも喜ばれ、職場の雰囲気が以前にも増して明るくなりました。地域の方々と外国人職員の関係も大変良く、畑で採れた野菜をいただいたり、町の食堂でご馳走になったりと、お互いの国の文化を受け入れ、尊重しながら良いコミュニケーションが育まれています。

◆ 2026年3月末時点の入居者状況

- ・入居者数54名（男性 11名、女性 43名）（神流町出身者 42名、上野村 12名）
- ・平均介護度4.0（介護度5…20名、介護度4…18名）

◆ スタッフ構成（法人全体）

施設長 1、介護職員 27（パート 4）、看護職員 5（パート 2）、介護支援専門員 3（パート 1）、相談員 1、調理員 7（パート 2）、管理栄養士 1、事務 3（パート 1）、庶務パート 1 合計 49名（外国人スタッフ 12名）

日本人スタッフ地域別では、神流町 22、藤岡市 5、上野村 4、高崎市 2、埼玉県神川町 3、本庄市 1



4-5. 社会福祉法人マグノリア2000 特別養護老人ホーム シェステさとの花

今井 洋子（施設長）

◆ 概要

シェステさとの花は、「最高の福祉サービスによる心安らぐ生活の提供」を理念に、介護が必要になっても安心して生活できるよう、一人ひとりに寄り添った生活をサポートしています。黒沢病院の医師が定期的に往診し、いつでも医療相談に対応するとともに、看取りケアも実施しています。また、様々な専門職スタッフを多数配置し、ご利用者の日常的なサービスだけでなく、介護相談、在宅サービスなど、幅広く質の高いサービスを多職種が連携し提供しています。また、法人として、以下の事業を展開しています。

- ・特別養護老人ホーム：シェステさとの花（従来型50床・短期入所 10床）、別邸 陽（ユニット型個室 20床）、別邸 紫（同）
- ・デイサービスセンターさとの花（定員 40名）
- ・ケアサポートセンターさとの花（小規模多機能型居宅介護事業）（登録定員 25名）
- ・グループホームさとの花（定員 9名）
- ・居宅介護支援センターさとの花
- ・あんしんセンターさとの花（高崎市委託事業）（担当地域：乗附・八千代・鼻高）

◆ スタッフ構成（法人全体：2026年3月時点）

保健師 1名、看護師 7名、准看護師 5名、理学療法士 1名、作業療法士 1名、歯科衛生士 1名、管理栄養士 2名、調理師 7名、主任介護支援専門員 2名、介護支援専門員 13名、社会福祉士 10名、介護福祉士 40名、介護職員 20名、介護助手 4名、調理補助 1名、事務員 9名

◆ 2025年度実績

① 群馬県いきいきGカンパニー優良事業所表彰 働き方改革部門優秀賞受賞！

「ICT化推進による業務負担軽減」「全員が有給休暇年間11日以上及び6～10日の連続休暇を取得できる仕組みづくり」「健康経営推進チーム設置による職員の運動習慣の定着」など長く働き続けられる職場づくりが評価されました。群馬県HPに紹介動画が公開されています。

(<https://youtu.be/bBAT4UQ6ebM>)



県知事から表彰

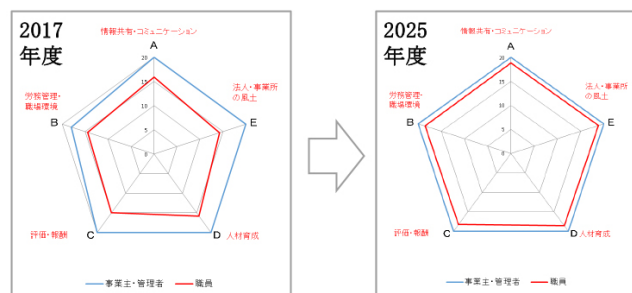
② 4年連続「健康経営優良法人ブライツ500」認定！

- ・健康診断受診率100%、有所見指摘率62.6%→44.4%へ改善、2次検査受診率92.4%
 - ・G-WALK+（群馬県公式アプリ）企業対抗戦「2025年夏の陣」「冬の陣」50人以上の部で第2位
- 運動習慣のある職員の割合も増加しており、職員の健康意識は年々高まっています。

③ ぐんま介護人材育成認証制度更新

2019年11月群馬県第1号の認証を受け、2025年11月に2度目の更新。

雇用改善チェックリスト「CHECK&ACTION25」の評価結果も年々向上しています（右図）。



④ デイサービス改革プロジェクトによるサービス向上！

リハビリ機器導入＋個別リハビリ体制強化、選べるレクの充実、短時間利用、持ち帰り弁当などの様々な取り組みをおこない、満足度の高いデイサービスを目指しています（写真は、新たなリハビリ機器を導入したデイホール）。



⑤ 2025年度群馬県老人福祉施設協議会フォトコンテスト「優秀賞」受賞

広報誌部門と合わせ4年連続受賞。日常の何気ない一コマです（写真）。これからもご利用者の笑顔につながる日常を大切にしていきます。



⑥ 中学校訪問「知ってもらおう介護の仕事」

介護の仕事の魅力を伝え、福祉への理解を深めてもらうことを目的に、今年度も若手スタッフを中心に片岡中学校・豊岡中学校・高松中学校を訪問。経験談や高齢者疑似体験など中学生にも先生にも大好評です。

⑦ さとの花 ヘルスツーリズム2025！

春・夏・秋・冬の年4回実施。（写真、右の4枚）。季節を感じたり、初めての体験をしたり、仲間と笑ったり、旅がスタッフの運動習慣定着のきっかけとなっています。



春：ひたちなかネモフィラ鑑賞



夏：長瀬ラフティング体験

⑧ 外国人スタッフの状況

新たにインドネシアから2名の技能実習生を受け入れ、現在、ベトナム 3名、フィリピン 1名、ミャンマー 6名、インドネシア 6名、ネパール 1名の計17名が活躍しています。

介護福祉士2名・特定技能4名・技能実習10名・留学生1名。内9名が日本語能力試験N2（通訳ができるレベル）に合格。次年度はネパールから4名受入予定。



秋：軽井沢ガラス吹き体験



冬：那須いちご狩り

⑨ さとの花研究発表大会（毎年2月）

毎年2月の職員研修会で1年間の取り組みを発表しています。今年の発表は8件、開所から24年間で施設内205件、施設外60件の演題を発表しており、年々充実した内容となっています。

◆ 学術活動

- ・齋藤賢宏，他．介護テクノロジー導入モデル事業への取り組み
- ・黒澤悠紀，他．色々な所へ行けて嬉しい！年間250日以上の外出
上記2件、第23回群馬県認知症デイ・小規模多機能・グループホーム大会，前橋，2025.8.27
- ・飯沼亮介，他．介護テクノロジー導入によるスタッフの負担軽減及びケアの質向上への取り組み
群馬県老人福祉施設協議会 介護チャレンジ2025～事例発表会～，前橋，2025.11.30
- ・小淵弘介，他．介護テクノロジー導入による介護現場の生産性向上及びサービスの質向上の実現．
第13回日本医療マネジメント学会群馬県支部学術集会，前橋，2026.1.25
- ・前沢清志，他．SDGs への挑戦～私たちにできる身近な取組での社会貢献～
- ・宮一峻也，介護テクノロジー導入による介護現場の生産性向上及びサービスの質向上の実現
- ・羽鳥賢治，介護DX化による生産性向上～事務の立場から～．
- ・平和美，改革プロジェクトによる基準人員配置で挑戦する満足度の高いデイサービス
上記4件、第10回美心会グループ学術大会，黒沢病院，2026.2.15

4-6. 株式会社ブラビック

坂本 昇（専務） 松原 哲司（課長）

◆ 概要

株式会社ブラビックは、1998年1月に美心会のMS法人（メディカル・サービス法人）として設立されました。以来、美心会グループ各機関の運営を支援し、業務の効率化と円滑な事業活動の実現に貢献してまいりました。当社は、グループ全体の経営基盤を支える役割を担い、各機関が本来の医療・介護サービスに専念できる環境づくりを推進しています。業務の集約化や効率化を図ることで、コスト削減や業務品質の向上に取り組み、グループ全体の発展を支援しています。

主な事業は、「購買事業」「業務委託事業」「ベンリーくろさわの運営」「自動車リース事業」の4分野です。購買事業では、医療・介護現場で必要となる医薬品や医療材料をはじめ、一般事務物品等の調達を一元的におこない、安定供給とコスト管理を実現しています。業務委託事業では、「送迎・営繕」「健診ご案内係」等、各機関の運営を支える業務を受託し、効率的な運営体制の構築に貢献しています。ベンリーくろさわは、地域の方々が日常生活で抱えるお困りごとを安心してご依頼いただける便利屋サービスとして運営しています。また、自動車リース事業では、業務用車両の管理・運用を支援し、安全かつ効率的な車両利用をサポートしています。

（1）購買について

美心会で使用している医薬品・医療材料・一般事務物品等を仕入れ、各施設・各部署に納めています。2009年に導入した物品管理システムにより、医療材料と医薬品はSPD管理をおこなっています。定数管理品については、各部署で商品に添付されたバーコードをスキャンすることにより、注文書を作成することなく補充される仕組みを構築しています。2025年度の売上は1,894,114,827円となり、2024年度より2億3756万円増加しています。内訳は下記表の通りです。

医療材料（起案）で納品した高額品としては、病棟のナースコールシステム更新、ヘルスパーククリニック放射線部の超電導磁気共鳴画像診断装置およびCT装置、高崎健康管理センターの上部消化管内視鏡装置6式、ヘルスパーククリニック内視鏡室の上部消化管内視鏡装置1式でした。事務一般物品（起案）ではヴァレオプロANNEXのマシン8台入れ替え、黒沢病院薬剤部のサーバー入れ替え、黒沢病院システム部のノートパソコン91台、高崎健康管理センター栄養部の厨房機器入れ替えが高額案件でした。

年度	医療材料	医療材料 (起案)	医薬品	事務一般	事務一般 (起案)	合計
2024年度	551,408,413	173,933,311	701,530,416	168,788,172	60,891,537	1,656,551,849
2025年度	574,889,695	433,884,475	622,045,086	189,808,433	73,487,138	1,894,114,827

（2）業務委託について

美心会との業務委託契約により、送迎・営繕・お客様ご案内・宿泊室清掃をおこなっています。従事している従業員は送迎・営繕30名、高崎健康管理センターご案内係24名、人間ドック専用宿泊室清掃係2名です。前年度との比較では送迎・営繕が6名増員しましたが、充足には至らず、引き続きハローワークや美心会ホームページへの掲載、SNSの活用を取り入れ採用活動を継続しています。

（3）ベンリーくろさわの運営について

正社員2名、嘱託1名、パート従業員2名（うち1名は事務担当）、登録パート13名で業務を遂行しています。前年度との比較では男性作業員（パート従業員）2名、登録パート3名が減少しています。男性作業

員（パート従業員）2名が退職、1名が契約終了となり、1名（パート従業員）が補充となっています。登録パートについては、8名が契約終了、5名が新規契約となりました。2025年度の利用者数は647名で、前年比-2名でした。新規顧客は125名で前年比-32名、再利用者は522名で前年比+30名でした。受注した仕事内容は、1位：ガーデンメンテナンス（除草・枝切り等）31.1%、2位：ハウスクリーニング24.1%、3位：ファニチャー（運搬・不用品片付け等）17.3%、4位：ハウスマンテナンス11.6%でした。2024年度と比較して2位と3位が入れ替わりしました。

（4）自動車リース業について

美心会へ43台の車両をリースしています。内訳は、黒沢病院14台、東部福祉総合相談センター12台、老健くろさわ14台、カーサ・デ・ヴェルデ黒沢3台です。現在は年額で請求しており、毎年9月にご入金いただいています。

（5）その他

2025年度の使用期限切れによる廃棄は、のべ61品885,617円ありました。最も多かった原因は、対象患者さんが来院されなかったことによる廃棄でした。また、仕入が箱単位の物品についても廃棄につながる場合があるため、一度使用期限を切らした物品については採用終了にすることや、入数の少ない商品への見直しをおこなっています。

2025年度に医療材料と医薬品を保管している倉庫を電子錠に変更し、登録された従業員のみ入室できるようにすることでセキュリティを向上させました。

◆ 展望

株式会社ブラビックは、美心会グループの一員として、専門性とサービス品質のさらなる向上に努め、グループ各機関の発展と地域医療・福祉への貢献を目指してまいります。

◆ 今後の課題

- ・物品は継続してコスト削減と安定供給に取り組む
- ・使用期限切れによる廃棄を減少させる
- ・業務委託の人員補充をすすめる